

## 講義情報

講義情報番号	
--------	--

### 講義表題情報

* 開講学年1	3・4
* 入学年度1	13～
* 対象学科1	法学
* 科目名1	法思想史A

### 担当教員情報

* 担当教員	岡寄 修
--------	------

### 講義詳細情報

* 講義目的・講義内容	<p>近代とは何か。分かっているようで分かり難いこの問いを、法律、経済、政治までを含めた関係を通じて概観します。 </p> <p>民法に見られる各種の規定も、この近代化へのプロセスの中から19世紀に生じたものである点に注目すれば、法思想史は決して過ぎ去った昔話をするための講座ではありません。現代の法の規定が、社会の変化に伴ってどのようにして誕生したのかを理解する上で、法思想史の知識は欠かせないものです。</p> <p>この講座では、歴史上の変化を政治と経済面から振り返り、近代化と個人主義化との間には密接な関係があることを示します。近代法の一大原則である「契約自由の原則」は、今では当たり前のもので思われていますが、これは、身分が支配していた封建社会が崩壊し、ビジネスの隆盛に伴って個人主義が開花した、19世紀になってようやく実現したものです。徐々に発展してきたビジネスが、前近代社会における自給自足経済の足元を揺るがし、封建社会の基礎を損ねる形で、近代資本主義経済の展開へとつながりました。</p> <p>民法で物権と債権という二大領域が出来上がったのは19世紀のことで、私有財産制度、所有権の絶対、契約自由の原則、完全権利能力という民法の仕組みの中に、この資本主義の骨組みが法的な形で示されています。</p>
* 到達目標	<p>現行法の解釈や理解をさらに深めるため、近代法に関する誕生の経緯を辿り、近代社会とそれ以前の社会との違いをより良く理解・説明できるようになる。</p> <p>社会に起きるさまざまな問題を独自の視点で分析し、自分の理解をもとに説明できるようになる。</p>
* 授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 法思想史はどのような学問か：オリエンテーション</li> <li>2. ありのままにものを見ているか？（認識論の基礎1）</li> <li>3. 個人主義は利己主義とは違う（認識論の基礎2）</li> <li>4. 封建社会での労働は「ご奉仕」（身分社会とは1）</li> <li>5. 慣習法の支配：一存での決定を阻むもの（身分社会とは2）</li> <li>6. 奉仕から財産へ：労働の意味の変化（近代化とは1）</li> <li>7. 「主人」と「奉公人」：身分社会での責任のありか（近代化とは2）</li> <li>8. まとめと小テスト</li> <li>9. 近代以前の取引風景（ビジネスの近代1）</li> <li>10. 私益の追求を認めた近代社会（ビジネスの近代2）</li> <li>11. 社会契約論と市民社会（「身分」から「契約」へ1）</li> <li>12. 契約社会とはどのような社会か（「身分」から「契約」へ2）</li> <li>13. 「レッセ・フェール」と立身出世：身分の支配が消えた証（自由と自律1）</li> <li>14. 競争する自由（自由と自律2）</li> <li>15. 共同体主義と父権主義（日本の社会分析）</li> </ol>

* 履修の条件・注意事項	<p>親子心中は、日本では同情すべきものとされますが、アメリカでは他人の殺害と同じこととみなされます。これはいったいなぜなのでしょう。こうした違いがなぜ生じるのかを考えることは、法思想史の重要な課題です。</p> <p>法の研究は、制度だけに限定されるわけではなく、それを運用する人の考え方や心理面の問題も含まれます。法律面だけに限定することなく、さまざまな分野に興味の関心を広げ、講義に臨んでください。</p>
* 成績評価基準・方法	<p>小テスト(40%)と定期試験(60%)の成績を加えて評価を下します。</p> <p>また、受講者の理解の度合いは、質問を聞くことを通じて判断できますので、講義中に良い質問があれば、それも加点対象とします。</p>
* テキスト	<p>教科書は指定せず、資料の引用を含む自前のプリントを配布して講義を進めます。</p>
参考書	<p>ジョン・デューイ/清水訳『哲学の改造』(岩波文庫)/  ジェイコブ・ブロノフスキー『科学とは何か』(みすず)/  ロバート・ハイルブローナー/八木他訳『入門経済思想史』(筑摩学芸文庫)/  他は講義と資料を通じて指示します。</p>

(この様式はシラバスとセットにしてホームページに掲載します)

朝日大学「法思想史A」科目の受講を希望する学生にシラバスに記載されていない情報を提供します。

科目名	法思想史A
時間割	毎週月曜日 2時限目 10時45分開始 12時15分終了
初回の授業日	4月9日(月)
講義室	朝日大学 穂積キャンパス 6号館8階 6813講義室
注意事項	・自動車による通学は禁止です。(どうしても必要な場合は、民間駐車場を借りてください。)
授業についての 問合せ	受講に関するお問合せは、朝日大学学事二課 TEL 058-329-1079 まで

地図	
交通アクセス	J R穂積駅から大学スクールバス(無料)で約5分